

宇土市長 元松 茂樹 様

宇土市庁舎建設基本構想(案)

に関する答申



平成28年2月

宇土市庁舎建設検討委員会



平成28年2月

宇土市庁舎建設検討委員会は、平成27年9月7日に宇土市長から「宇土市本庁舎建設の基本構想(案)」について調査、審議するよう委嘱を受けて発足しました。

委員会は、学識経験者及び市内各種団体の代表者など計7人により組織され、宇土市の新庁舎建設における「庁舎の機能、規模、位置など」利用される市民の立場に立ち、各種専門的な視点も入れながら議論してまいりました。

まず、現在の庁舎は築50年を迎え、老朽化も激しく耐震性にも大きな課題があるとのことでした。前提条件として市庁舎は、災害時には市民の安全確保のため司令塔として対応する必要があることは言うまでもありません。現庁舎は構造上の問題により耐震補強を行うことが困難ということで、委員会の意見として建て替えということで一致し、議論を進めていくこととしました。

その他、審議を進めていく過程で、新庁舎の「まちづくり機能」の必要性についても共通理解を得たように思います。「50年後の将来を見据えた庁舎に」という要望は委員共通の願いですが、将来の宇土市や日本の姿を「成長社会」とみるか「成熟社会」とみるかで、新庁舎の位置や機能、併設施設の内容にも違いがでてくる可能性もあり、この問題については未解決のまま残されています。

なお、市庁舎の建設については、今後の宇土市のまちづくりなど市民生活へも大きな影響があります。そのため、市民に対しての説明など、今後も十分に市民参画を図りながら進めていただくようお願いいたします。

最後に、委員会においては、後述意見のほかにも、様々な意見が出されました。今後、宇土市において策定される基本構想、基本計画に反映していただくことを委員一同願い、別に添付する委員会議事録と併せて委員会からの答申として報告します。

平成28年2月

宇土市庁舎建設検討委員会

委員長 内丸 恵一



① 基本理念・方針及び新庁舎の機能について

新庁舎の機能における防災拠点の充実の部分について、災害時には市民の避難場所として使用できる機能を加えること。

また、利便機能及び市民活動支援機能の部分では、多くの市民が集えるように交流や情報発信できるスペースなど、複合的な機能を持った施設としても検討していただくようお願いします。

② 新庁舎の規模について

宇土市庁舎建設基本構想（案）では、将来本庁舎に在籍する予定の職員数で規模が算出されています。

新庁舎の規模を検討するにあたっては、前段の機能の部分でも記載があるように、他の公共施設との複合化も視野に入れた規模で検討していただくようお願いします。

③ 新庁舎の位置及び公共施設再整備について

位置については、少子高齢化が進む中で市民の利便性や将来的に中心市街地がどう形成されているかなどを十分考慮することが必要であると考えます。

基本構想（案）では、市内4箇所を建設候補地としてあげてありますが、次年度予定されている庁舎建設基本構想を考える中で、市民の意見も交えながら、再度建設候補地を広げるなど検討していただくようお願いします。

④ 新庁舎建設スケジュールについて

現庁舎の耐震性の課題を前提に考えると、早急に新庁舎建設に向けて進めていくことが望ましいと考えます。

しかしながら、近年の建設業界の傾向として、東日本大震災の復興事業、東京オリンピック特需及び、円安による輸入建設資材の高騰や作業員不足などにより建設費が上昇し続けている状況です。

そこで、市の財政負担を考慮すると、一定期間スケジュールを後ろ倒しすることも視野に、再度検討をしていただくようお願いします。